

古賀俊夫

<基本情報>

所在地：福岡県八女郡広川町

<農場概要>

- びわ45a、全て有機 J A S 認証を取得
- 他に桃（ハウス、露地）、ぶどう（雨よけ）、ブロッコリー、水稻を栽培（びわ以外は非有機）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 以前は、町内に4名のびわ農家がいたが離農等により減少し自分一人となった。
生産量では他産地との競争に勝てないため、差別化が必要と判断し、食の安全安心に着目し有機栽培を開始。
- **平成17年（2005年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 販売先の大半は J A だが、有機農産物取扱業者へも販売。
有機農産物取扱業者への販売量が徐々に増えており、現在では3割近くを占めている。
- 「有機びわ」は、化粧箱（500g）とパック（250g）の2種類で販売。
- いわゆる規格外品は殆ど発生しないため、果実を使用した加工品はないが、葉を使用した「有機びわ茶」を有機加工 J A S 認定事業者に製造委託し、販売。
- 全て国内販売のみで輸出は行っていない。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
害虫は、管理作業で圃場巡回する際に捕殺。
- 雑草対策
草刈り機による除草に加えて補助的に人手による除草。
- 土づくり
米ぬかに粃殻を混合した自家製有機堆肥による施肥。

<苦勞しているところ>

- 害虫は、捕殺で行っているため大変な手間が掛かっている状況。
- 除草作業は、乗用草刈り機を使用できないため背負い式の草刈り機で行っており重労働。現在、乗用草刈り機を使用できるように下枝払いにより樹形を整えているところ。

<現場の課題>

- 今後も有機農業を継続していくが、有機 J A S 認定取得後の毎年の継続審査費用が結構かかるため、国で支援いただきたい。
- 消費者の認知度を高めるため小売店にオーガニック売場の設置を義務化することで、消費が増え、生産も増えるという好循環が生じるのではないかと。

